

# 北海道浮魚ニュース

平成 21(2009)年度 18 号 (通巻 No. 289)

2009 年 9 月 29 日

北海道立水産試験場

ホームページ : [http://www.fishexp.pref.hokkaido.jp/ukiuo/uki\\_index.htm](http://www.fishexp.pref.hokkaido.jp/ukiuo/uki_index.htm)

## ◎平成 21 年度オホーツク海サンマ漁況見通し

北海道立釧路水産試験場・網走水産試験場・稚内水産試験場および独立行政法人水産総合研究センター東北区水産研究所・北海道区水産研究所が協議を行い、9月28日に「2009年(H21年)オホーツク海沿岸におけるサンマ漁況の見通し」を発表しましたので、内容を要約してお知らせします。

### 【漁況見通し】

- ① 来遊量 : 来遊量が多い
- ② 来遊時期 : 北海道沿岸域への来遊は9月中旬以降

### 1. オホーツク海で漁獲されるサンマの回遊 (予備知識)

例年オホーツク海で漁獲対象となる魚群は中型・小型魚が主体で、この群は南千島太平洋側へ来遊したものの一部が、7月から8月にオホーツク海へ移動・回遊するものと考えられます。したがって、7月から8月に太平洋海域に分布する中型・小型魚の分布量が多く、なおかつ南千島海域の表面水温がサンマの移動・回遊に適していれば、オホーツク海への来遊量は多くなると考えられます。また、オホーツク海に回遊したサンマは、8月から9月頃はオホーツク海の中南部海域に広く分布します。9月以降には海水温の低下にともない、宗谷暖流のため比較的水温が高い(10℃以上)北海道沿岸域へと移動し、そこで漁場が形成されます。

### 2. 来遊資源量

・6月から8月の太平洋における中型・小型魚の分布量

東北区水産研究所が今年の漁期前(6月から7月)に実施した中層トロール調査結果では、太平洋全体に分布する大型魚は少なく、中型・小型魚・ジャミが主体であった。オホーツク海への来遊が期待される東経162度以西の日本近海に分布する中型・小型魚の資源尾数は、昨年(9.3億尾)より少なく、8.2億尾と推定されました。

今年7~8月の太平洋海域(主に東経150度以西)におけるサンマ棒受け網の漁獲物は大型魚が主体で、中型・小型魚の漁獲尾数は1.18億尾と推定され、昨年(0.42億尾)よりも増加しました。2003年以降最も高い水準です(図1)。

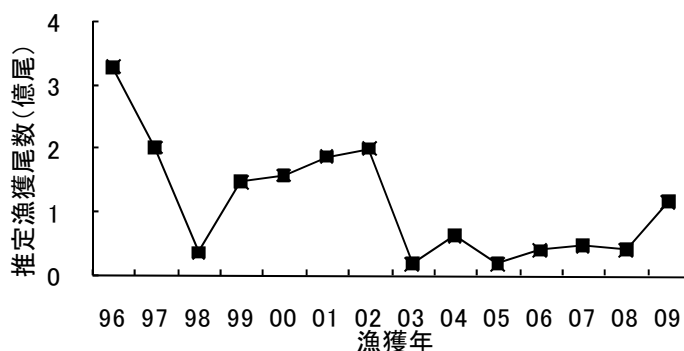


図1 太平洋海域における中型・小型サンマの推定漁獲尾数 (8月下旬まで)

※魚体説明: 特大魚(体長32cm以上), 大型魚(29-31cm台), 中型魚(24-28cm台)  
小型魚(20-23cm台), ジャミ(20cm未満)

### ・オホーツク海へ回遊する海況条件

7月から8月の南千島海域における表面水温が高い年には、サンマがオホーツク海へ回遊する条件が良好であると考えられています。今年の7月中旬から8月下旬の南千島海域は、7月中旬から7月下旬にかけて10℃以上の水に覆われていた海域の割合が6割以下でしたが、8月上旬以降はほぼ全域が10℃以上の水に広く覆われていました。したがって、今年の太平洋からオホーツク海へ回遊する海況条件は、水温の上昇がやや遅かったものの比較的良好であったと考えられます。

### 3. 北海道沿岸域への来遊時期

紋別沖の週間平均表面水温の年最高値とオホーツク海におけるサンマ初漁日の間には、週間平均表面水温の年最高値が17℃以上の年に限れば、水温が高い年ほど初漁日が遅くなる傾向が見られます(図2)。

今年9月中旬までの週間平均表面水温の最高値は、8月第3週の17.0℃でした(図2)。これは昨年よりも低く、最高値を示した時期は昨年より早くなりました。また、この水温を過去の初漁日と水温の関係に照らし合わせると、初漁日は9月中旬以降と考えられました。

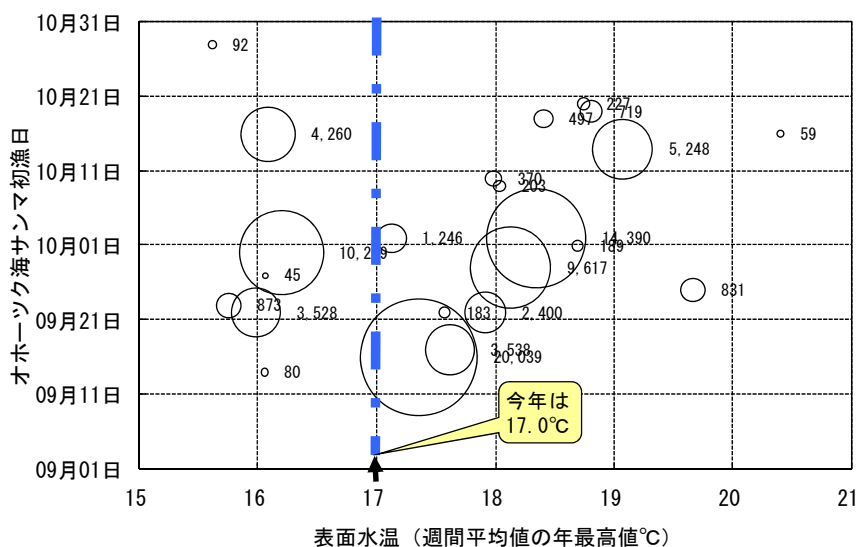


図2 紋別沖の週間平均表面水温の年最高値とオホーツク海におけるサンマ初漁日の関係  
表面水温は北緯44度～45度、東経143度～144度の海域  
図中の数字は漁獲量(トン)を示す  
「○」が大きい程漁獲量が多い

**従って、今年はオホーツク海へ来遊する海況条件は比較的良好であること、サンマの中型・小型魚の資源量は日本近海の太平洋海域では少ないが太平洋全体では多く、その漁獲尾数は1.18億尾と高い値であること、などにより北海道オホーツク海沿岸へのサンマの来遊量は多く、その来遊時期は9月中旬以降と推定されました。**

### 5. その他

オホーツク海で操業する棒受け網船の多くは太平洋から回航してくるため、オホーツク海における漁獲量は、来遊資源量が十分ならば、この回航隻数と操業期間すなわち延べ操業隻数に左右されます。また、9月中旬・下旬の道東太平洋の漁況が良好である年はそこで操業を続けるため、オホーツク海への回航隻数は少なくなる傾向にあります。このため、この時期の道東太平洋の漁況がオホーツク海の漁獲量を決定する要因の一つになっています。今年9月中旬現在で道東太平洋海域の漁況は良好で、このまま好漁が続けばオホーツク海へ回航する漁船が少ないと考えられます。

(文責：釧路水産試験場資源管理部, TEL:0154-23-6222, FAX:0154-23-6225)